



(写真1) 高島平団地で開催された外国人によるスピーチ大会出場者の皆様

NP0活動紹介 高島平ACT（特定非営利活動法人ASIAN COMMUNITY Takashimadaira）

世界は、ここに住んでいる。～団地の中のワールドワイド～

かつて「東洋一のマンモス団地」と称された高島平団地では、近年、住民の中高齢化が増加する一方、外国籍住民も急増し、世代・国籍の両面で多様化が進むという住民構成が大きく変化しています。

そして、外国籍住民と日本人住民の交流は少なく、住民同士の関係性が分断され、地域としての一体感の希薄化が懸念されています。また、地域コミュニティの中核を担ってきた自治会は加入率の低下や役員の高齢化が課題となっています。

高島平ACTは、こうした状況を踏まえ、日本人住民と外国籍住民との懸け橋となることを目的として2011年12月25日に設立されました。特に、日本語学習支援を軸に、外国籍住民の地域参加を促進するとともに、中高齢者が自身の知識や経験を生かして支援に関わる機会を創出し、高齢者の社会参加や生きがいの向上も期待されています。

また、多文化講座や異文化理解研修を実施し、住民が地域の現状や課題について理解を深める機会を提供しています。さらに、シンポジウムやワークショップを開催することで、多文化共生の重要性をより多くの住民へ発信しています。こうした取り組みを通じて、世代や国籍を超えて支え合う地域社会の実現を目指しています。

ゆうちょ財団は、6月27日に高島平ACTの活動の一環として団地内で開催された「外国人によるスピーチ大会」取材しました(写真1)。本イベントでは、外国人住民が自身の経験や思いを語り、多文化共生について考える貴重な機会となりました。

高島平ACTの活動について、団体スタッフに聞きました

——この団地にはどのくらいの数の住民がいて、日本人と外国人の割合はどのくらいですか。また、外国人は、こういった国の方が多いのでしょうか。

吉成さん:高島平二丁目団地及び三丁目団地には2020年度に実施された国勢調査から推計して約1200人程度の外国籍住民が居住しております。そのうち80%が中国籍と思われます。今回のプロジェクトではこの中国籍住民を主としつつ、数パーセントずつ居住しているベトナム、ネパール、ミャンマー、バングラデシュ国籍の住民も対象にしております。実際には、このうちの70%程度の外国籍住民への呼びかけ及び参加をめざしています。

——高島平ACTが団地で活動するようになった前と後の変化を教えてください。

吉成さん:高島平団地では外国籍住民の比率は問題となっている団地と比較して12%程度と少ないです。従って、これまで大きな問題は起きていません。ただ日本人住民と外国籍住民は互いに交流することなく、生活圈、コミュニティを住み分けてきました。そういうこともあり表立った対立は起きていません。

2011年から高島平ACTが団地で活動するようになってから、団地の中の外国籍住民を日本人住民も意識するようになっていきます。実際に多文化共生をテーマにしたシンポジウムなどで自治会の日本人役員が手伝ったり、中高齢のボランティアの参加も増えています。まずは多文化共生を実感するところが始まりといえます。次は理解し、実際に体験することです。いま高島平団地の多文化共生はこの段階にあると感じています。



(写真3) 高島平ACT 理事の小田さん



(写真2) 高島平ACTの理事吉成さん

——高島平団地という場所で活動を続ける中で、外国籍住民と日本人住民の距離感を縮めるために、特に工夫している点や苦労している点がありますか。

小田さん:現在、毎週土曜日に日本語教室を開催しています。その教室では、日本人ボランティアと外国人の日本語学習者が一緒になって学んでいます。

私たちは、文法を教えることだけを目的にするのではなく、「自分がどのような思いを持っているのか」「どのような経験をしてきたのか」といった、自分自身について話す機会をできるだけ多く設けるようにしています。

以前は「中国の方はこういう人だ」「この国の出身の方はこういう特徴がある」といった先入観を持ってしまっていたこともありましたが、実際に皆さんとコミュニケーションを重ね、一人ひとりを知る中で、国籍や出身、言語の違いにとらわれず、お互いに同じ地域で暮らす一人の人間なのだというを実感しています。日本語教室だけでなく、高島平ACTでは地域のイベントにも積極的に参加しています。例えば、盆踊りに一緒に参加したり、多文化共生について地域の皆さんと考える講座を開催したりしています。こうした機会を通して、日本人と外国人が交流する場をこれからも増やしていきたいと考えています。

――高島平団地ならではの難しさはありますか。

加藤さん：高島平団地には、二丁目の賃貸住宅と三丁目の分譲住宅があり、それぞれ地域の状況が異なります。三丁目の中でも活動拠点がある建物だけは賃貸住宅で、賃貸と分譲という違いから生まれる課題もありました。そうした中でも、自治会活動を通じて、「賃貸も分譲も同じ地域の住民」として一緒に活動できるよう取り組んできました。特に昨年は、地域で起きていたさまざまな課題をきっかけに、「実際に地域を歩きながら一緒に考えよう」というイベントを開催しました。

昨年12月の最後の日曜日に、日本人住民、中国の方をはじめとする外国籍住民、さらに立教大学の学生の皆さんにも参加していただき、団地内を一緒に歩きました。団地の前には公園がありますが、中国では家族で夜に子どもを公園で遊ばせる文化があるため、日本でも夕食後に親子で公園へ来る家庭が多く見られます。一方、日本では夜8時頃になると子どもを寝かせる準備をする家庭が多いため、大きな声で遊んでいると「うるさい」という苦情につながる場合があります。そこで、実際に現地を歩きながら、「なぜ夜に公園へ集まるのか」という中国側の文化や生活習慣を紹介するとともに、「日本では夜8時頃には静かに過ごす家庭が多い」という地域の生活習慣についても丁寧に説明しました。

また、中国の方は比較的声が大きいと感じることもあります。それは文化的な違いでもあります。



(写真4) 高島平ACTスタッフ（高島平三丁目自治会第三支部長）の加藤さん

一方で、家族との時間をとても大切にしているなど、日本人にも知ってほしい文化があります。お互いの文化を理解し合うことが、多文化共生には欠かせないと考えています。イベントでは、ごみの分別や出し方についても実際に現場を見ながら説明し、一つひとつ分別することの大切さを一緒に学びました。年末にもかかわらず多くの方が参加してくださり、「こんなに集まるのか」と驚くほど盛況でした。このような活動を通じて、団地のことを知っていただくとともに、日本人も外国人もお互いの文化や暮らしを理解し、地域の中で自然につながっていけるよう心がけています。

――吉成さん、小田さん、加藤さん、ありがとうございました。

「外国人による日本語スピーチ大会」の模様

高島平ACTは活動の一つとして、現在、毎週土曜日に日本語教室を開催しています。今回のイベント「外国人による日本語スピーチ大会」では、日本語教室の学習者のなかから8名の方が日頃の学習の成果を披露してくれました。大会の趣旨としては順位を競うものではないことから、それぞれが自分の好きなテーマについて、自分らしく発表しておりました。

発表テーマと発表者は次の通りです(発表順。全員中国籍の方でした)。

①「高島平物語」(胡将さん)、②「社会人になると友達作りが難しくなる」(陳小博さん)、③「私の故郷」(崔小彤さん)、④「日本に来てから暮らしている地域について」(張琬嫻さん)、⑤「日本に来てよかったこと」(孫旭さん)、⑥「決めつけないということ」(王強さん)、⑦「パンダについて」(馬瑞さん)、⑧「私の理想とする多文化交流社会」(秦亜洲さん)

全員のスピーチ終了後に「ACT特別賞」が発表されました。これは、①一生懸命伝えようとしていたか、②内容が分かりやすかったか、③聞いていて印象に残ったか、④その人らしさが伝わったか、の4つの観点から審査を受け授与されます。

高島平ACTのスタッフによる審査の結果、「ACT特別賞」は秦亜洲さんに授与されました。秦さんは、2022年9月に来日され、2023年3月から日本語教室に参加されています。秦さんのスピーチでは、日本での暮らしや地域活動での経験を振り返りながら、違いを恐れるのではなく楽しみ、お互いを尊重し支え合うことが、本当の意味で豊かな多文化共生社会につながるという思いを発表されていました。



(写真5) ACT特別賞を授与された秦さん

スピーチ大会でACT特別賞を受賞した秦亜洲さんに聞きました。

——[ACT特別賞] 受賞おめでとうございます。今回のスピーチのテーマ「理想とする多文化交流社会」を選んだ理由とスピーチを終えた感想をお聞かせください。

秦さん: 私は、自分の思いや思いやりを多くの方に伝えていきたいと思っています。このテーマを選んだ理由は、日本に来てからの3年間の経験にあります。

この3年間、日本語教室の先生や高島平ACTの皆さんと一緒に、さまざまな地域活動に参加してきました。活動を通して、自分の思いや感じたこと、そして自分はこれからどのように行動していけばよいのかをずっと考えてきました。

今回のスピーチでは、その経験を皆さんに伝え、多文化交流の大切さについて理解していただきたいという思いで発表しました。

——一番伝えたかったことは何ですか。

秦さん: 外国人と日本人と一緒に地域をつくっていくことの大切さです。特に、高島平という地域で、お互いに支え合いながら暮らせる多文化共生のまちをつくってきたいと思っています。

——日本人住民との交流の中で、うれしかったことや印象に残っていることは何ですか。

秦さん: 一番印象に残っているのは、毎週土曜日に行われている日本語教室です。外国人の皆さんと日本人の先生、ボランティアの方々が一緒に日本語を学んでいます。

この教室はとても温かい雰囲気で、まるで家族のように感じられる場所です。そのような環境で学べるのが、とてもうれしいです。



(写真6) 日本語でスピーチする
秦さん

——日本での生活で感じていることや、地域に望むことを教えてください。

秦さん: 日本はとても安全な国だと感じています。私が住んでいる高島平は、学校や病院などが近くにあり、とても暮らしやすく便利な地域です。

一方で、日本語はまだ難しいと感じることもあります。しかし、周りの日本人の皆さんはとても親切なので、安心して生活することができています。

——秦さん、ありがとうございました。

聴衆として参加した日本人の方に聞きました。

——今回のイベントに参加したきっかけを教えてください。

小田さん: 小学校で長年ボランティア活動をしており、外国籍の子どもたちと接する機会が多くあります。

以前から、大人の方がどのように日本語でスピーチをされるのか興味があり、今回参加しました。

——スピーチの中で印象に残ったことはありますか。

小田さん: 「決めつけないこと」という言葉がとても印象に残りました。

学校でも、日本のルールに慣れていない子ども们いますが、文化や生活習慣の違いを理解したうえで、「日本ではこうなんだよ」と優しく伝えるよう心掛けています。

今回のスピーチを通して、思いやりを持って相手を理解することの大切さを改めて学びました。

――外国籍住民との交流で考え方に変化はありましたか。

小田さん：以前は、外国籍住民に対して先入観を持ってしまいうこともありました。

しかし、ルールを守れない人は日本人にもいます。そのため、「外国人だから」と決めつけないよう意識するようになりました。

――今後、このような交流の機会に期待することを教えてください。

小田さん：私が活動している高島平二丁目町会にも外国籍住民が増えています。

団地だけでなく、地域全体へ交流の輪が広がっていくことを期待しています。

今後、高島平ACTの皆さんが町会の夏祭りにも参加してくださる予定なので、それをきっかけにさらに交流が深まり、お互いを知る機会が増えればよいと思っています。

――小田さん、ありがとうございました。



(写真7) 小田さん

編集後記

今回取材した高島平ACTの「外国人によるスピーチ大会」は台風7号と8号のダブル台風が来ている中、行われました。前日に比較的大きな地震も複数回あり、開催が危ぶまれておりましたが、会場には約50名ほどの聴衆がおり、盛会となりました。

日本語のスピーチでは各発表者が自分で選んだテーマについて、学んだ日本語で独自の視点から発表されており、バラエティに富んでいて興味深く拝聴しました。取材にご協力いただいた高島平ACTの皆様をはじめ、各発表者の皆様、近隣の皆様に感謝申し上げます。

最後に当財団も理事長と専務理事が交代となり、新たな体制となりました。引き続きよろしくお願い申し上げます。